



## 創立100周年に向けて 世界へ、そして未来へ

神奈川大学は、1928年に横浜・桜木町の地に創立され、昨年創立90周年を迎えました。神奈川大学となり、親しみを込めて「神大-じんだい-」と呼ばれるようになってから今年でちょうど70年。そして、2028年の創立100周年を見据えて、さらなる歩みを進めています。2019年4月から、神奈川大学の動きをお伝えする「JINDAI LETTERS」を発行することにいたしました。JINDAIの“今”を感じていただければ幸いです。

## 創立100周年、そしてSDGsの達成に向けて、私たちが果たすこと

神奈川大学長 兼子 良夫

### 2019年度は、「未来創造スタート年」

神奈川大学の兼子良夫です。この度、2期目の学長を務めさせていただくことになりました。社会がめまぐるしく変化し、大学を取り巻く環境も変容を遂げる中、引き続き重責を担うこととなり、大変身が引き締まる思いです。

2016年4月に学長に就任して以来、多くの方々にご意見をいただきながら、本学の研究・教育の充実を目指した数々の取り組みに着手してきました。とりわけ、みなとみらいキャンパスの開設と、本学14年ぶりとなる新学部「国際日本学部」（設置届出中）の設置を決定したことは、本学が世界と地域社会に広く開かれた永続的な世界水準の大学へ向かう、第一歩

を印すものと言えるでしょう。

2019年度は、2028年の創立100周年を見据えた「未来創造スタート年」として、各種計画が大きく進展していく年となります。「時代を切り拓く力」を持ったYOKOHAMAの総合大学として、世界を引き付け、未来社会を先導するために、次の5点を重点事業として推進していきます。

### 《重点事業の概要》

「知の拠点」にふさわしい教育組織や教育研究環境の構築を推進します。そのために、教学ガバナンスを強化し、国際化とダイバーシティの推進を基軸に据えて、教育研究体制の整備を進めます。

(1) 国際日本学部（設置届出中）の設置と魅力的な教育組織の構築

国際日本学部の2020年4月開設に向け、設置に係る手続を着実に進めます。また、本学の先進性を生かした、より魅力的な教育組織や教員組織の再編・改革に取り組みます。

#### (2) みなとみらいキャンパス計画の推進と教育研究環境の向上

みなとみらいキャンパスは、教育と研究の交流を促す知的空間としての図書館機能の強化や自立学習支援を促進する空間の創設などを進め、世界と日本、地域の懸け橋となる人材を養成する都市型・未来型キャンパスを目指します。また、地域社会との連携の拠点となる社会連携センターを設置し、地元自治体や横浜企業経営支援財団、神奈川県中小企業家同友会等に続き、自治体・企業等との協定締結を促進します。

#### (3) 教育の質の向上と多様な教育の展開

高大接続の要となる初年次導入教育に力を入れ、教養教育と専門教育との有機的連携による、柔軟で魅力的な教育課程の改革に取り組みます。また、学生が自ら主体的・能動的に考え課題に取り組む学際的・国際的なプログラムを拡充し、国内外の学生交換留学をはじめ、ゼミナールや演習、体験型学習等を組み合わせる主体的・対話的で深い学びを促進します。

#### (4) 特色ある研究と教育の推進

国連により定められた持続可能な開発目標(SDGs)の達成と、持続可能な社会の実現を目指す多様な研究・教育を積極的に推進し、世界水準の高等教育機関にふさわしい教育研究環境の整備を進めます。

「海とみなと」の地理的・歴史的条件を共有する国内外の大学間ネットワークを構築し、それぞれの大学の個性と多様性を生かした特色ある研究・教育プログラムの開発や単位互換等の多彩な交流を進めます。また、国内外の学生たちが共同生活を通じて国際感覚を育むことができる新国際学生寮(仮称)の建設や、国内外で国際性を身につける多様な教育プログラムの開発等に取り組む、学生の意欲や能力を高める教育を進めます。

#### (5) キャリア形成と学生支援の強化

学生の成長を支援する体制を一層強化し、就職支援の強化とキャリア教育の改革を進め、U・Iターンをはじめ、学生一人ひとりの資質や能力、希望に応じた就職支援等に取り組みます。地域社会と連携したキャリア教育やインターンシップ等に取り組みます。

給費生制度や予約型奨学金制度のほか、各種奨学金等の充実に向けた検討を進めます。また、障がい等を理由とする差別や不利益が生まれないように教育環境を整備し、様々な配慮を求める学生の要望に的確に対応するサポート体制を確立して多様な学生を支援するよう努めます。

## 多様な「知」が交流する、新たな学びのステージ 「みなとみらいキャンパス」

これまでの大学は、キャンパス内でじっくりと研究に取り組む教員と、その研究から多くを学ぶ学生とが、「学び」て「問う」ことを大切にしてきました。しかし最近では、学生や教員がキャンパスから飛び出し、社会で起こっている様々な事象を題材に研究や学修を進めるなど、大学のあり方に変化が求められています。

みなとみらいキャンパスの周辺には、ビジネス街や官庁街



が広がっており、グローバル企業や地域と連携した独自の教育・研究が、これまで以上に可能となります。「国際化の縮図」のようなエリアに、国内外から約5,000人の学生が集うことで、多様な「知」が交流する、新たな学びのステージとなることでしょう。

大学の存在意義は、いかに時代を先導する力を示すか、いかに人類の未来に貢献できるかにかかっています。未来社会をリードする研究を行い、その英知を教育に反映するとともに、地域や社会の課題解決に生かしていきたいと思っています。こうした考えから、みなとみらいキャンパスは、社会との接点としての機能をとりわけ重視しています。低層階は市民に開かれた空間とし、人々の自由な交流と賑わいを創出。産官学連携の中核となるプラットフォーム「社会連携センター」の設置も計画しています。キャンパス開設を発表してから、いくつもの企業から連携のお誘いを受けています。すでにヨコハマ グランド インターコンチネンタル ホテルとは包括協定を締結してキャリア教育などで連携が進み、国内外の文化交流の場であるホテルの目線から学ぶ授業科目「外国語・異文化の学びとキャリア形成」が今年4月にスタートしました。

## 多様な価値観を理解し、多文化共生を学ぶ 「国際日本学部」(設置届出中)

国際化とダイバーシティが当たり前となり、国を超えて人とモノが行き来し、国家間の相互依存も進んだ時代にありながら、国境、文化、宗教などの壁が立ちはだかり、「対立と分断」が進む、困難で複雑な世界に私たちは生きています。2015年9月に国連が採択したSDGs(持続可能な開発目標)にもあるように、共生社会の実現に真剣に向き合わなくてはなりません。こうした中、世界と日本の文化・歴史を深く理解し、

多様な交流と共生をはかることができる人材が不可欠だと考え、文化への深い理解と交流を基軸とした「国際日本学部」を構想しました。国際的な感覚と人間的な魅力を併せ持った、良識あるグローバル人材の育成を目指します。

本学が考えるグローバル人材は、単に英語で他の国の人たちとコミュニケーションをはかれる人ではありません。国や宗教の違いなどを超えて、多様な価値観を理解し、交流できる人が、本当のグローバル人材だと考えます。こうした見地から、国際日本学部では、「世界」「日本」「地域社会」を「文化交流・多文化共生・コミュニケーション」という軸で読み解き、具体的な地域貢献、企業活動、研究開発、国際協力などに結び付けていく力を育てていきます。

## グローバル系学部を集結させることで、 枠を超えた相乗効果が生まれる

みなとみらいキャンパスに集まる3つの学部は、本学の中でも特にグローバル教育に重点を置いています。経営学部、外国語学部、国際日本学部、この3つが集結することで、大きな相乗効果が期待されます。例えば、経営学部で学ぶ「グローバルに展開するビジネス」には、外国語学部で学ぶ「人間の多様性と普遍性」や、国際日本学部で学ぶ「世界における日本」の知見が成功の礎となるでしょう。多角的な視点から議



論を戦わせ、新たな価値を生み出す刺激的な空間が誕生することを願っています。

外国語学部と経営学部では、みなとみらいキャンパスへの移転を見据えた改革も進んでいます。外国語学部では、国際日本学部開設と同じ2020年から新カリキュラムをスタート。英語英文学科の新プログラム「Global English Communication Program (GEC)」をはじめ、各学科で留学プログラムを拡充します。経営学部でも、これからのグローバル社会を見据えた新カリキュラムの検討が進んでおり、2021年のみなとみらいキャンパスへの移転にあわせて、「国際経営学部」への名称変更を構想しています。

## 時代が変わっても、 「人をつくる大学」でありつづける

本学は、創立者の米田吉盛先生が、横浜・桜木町に本学の前身である横浜学院を開設し「教育は人を造るにあり」と説いて以来、卓越した研究に基づく教育重視の伝統を堅持し、世界に通用する有為な人材を輩出してきました。

昨今、SDGsの流れを受け、社会のいたるところで多様な動きが見受けられますが、本学の建学の精神、ミッション・ビジョン、さらには1933年から実施している給費生試験など、本学の理念や取り組みの数々は、SDGsの精神に符合するものだと感じます。社会の動向を見据えながらも、「人をつくる大学」でありつづけることが本学の責務であり、ひいてはそれがSDGsの達成につながると考えています。

日本の文化と歴史の基底にある「共生」と「寛容」を世界へ積極的に発信し、国際的な感覚と教養を身につけた良識ある市民を育てる大学教育を実現するとともに、それを支える優れた研究拠点を横浜の地に展開する。本学のような改革は、世界の平和と人類の福祉の向上に貢献するものになると確信しています。



### 兼子学長のインタビューを動画でご覧いただけます

2020年度国際日本学部誕生（設置届出中）、2021年度みなとみらいキャンパス開設、創立100周年、そして、その先の未来を見据え、さらなる歩みを進める神奈川大学について、兼子学長が語ります。



## 2020年4月、新学部「国際日本学部」開設 (設置届出中)

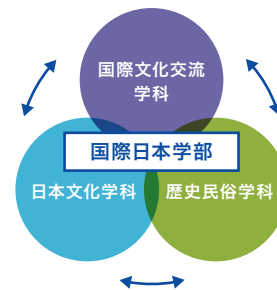
世界でここにしかない学びを、みなとみらいで。

国際日本学部の英文表記はCross-Cultural and Japanese Studiesです。グローバルというただ一つの基準で世界を見つめるのではなく、個々の多様な文化の成り立ちや価値観を理解し、それぞれのよって立つ足元「Roots(根)」を見つめたうえで、広く世界に羽ばたくための語学力やコミュニケーション力「Wings(翼)」を身につけます。文化とは一つの国だけで成立するものではなく、複数の文化が交じり合う中で、新たに生まれていくもの。この文化のダイナミズムへの理解を深めることこそが、現代のグローバル社会の未来を切り拓く鍵となります。国際日本学部は、「文化交流-多文化共生-コミュニケーション」をキーワードに、深い専門性と幅広い教養を兼ね備えた、世界と日本、地域を結ぶ架け橋となる人材を養成します。



### 国際日本学部の 3学科のつながり

3つの学科は、それぞれのコアを持ちながら、学科を超えた学び・横断的な学修も可能。広い視野と知識の上に自分の専門を築けます。



## 2021年4月、新キャンパス「みなとみらいキャンパス」開設

多様な人が集い、交わる「知の拠点」。

1928年、国際港都・横浜の桜木町に誕生した神奈川大学は、創立から90年余りを経て、発祥の地に隣接する「みなとみらい地区」に、新たなキャンパスを開設します。コンセプトは、『国際・日本』の融合した未来『創造・交流』キャンパス。世界や地域に開かれ、多様な人や文化が交流する、新たな「知の拠点」となります。高さ約100m、21階建ての校舎に教室や研究室、学食などの施設が入る、都市型・未来型の新キャンパスには、国際日本学部、外国語学部、経営学部のグローバル系3学部が集結。周辺のグローバル企業や官公庁、文化施設などとの産官学連携をさらに強め、独自の教育・研究を展開していきます。



### みなとみらいキャンパスに集う、グローバル系3学部

●2021年にみなとみらいキャンパスへ移転!

|   |                    |                       |
|---|--------------------|-----------------------|
| <b>NEW</b><br>国際日本学部<br>2020年<br>横浜キャンパスに開設予定 | 外国語学部<br>現・横浜キャンパス | 経営学部<br>現・湘南ひらつかキャンパス |
|---|--------------------|-----------------------|

グローバル系3学部の集結により、学部の「枠を超えた学び」が広がっています。



「国際日本学部(設置届出中)」「みなとみらいキャンパス」の特設サイトがオープンしました

今後も最新の情報を掲載していきますので、ご注目ください。

